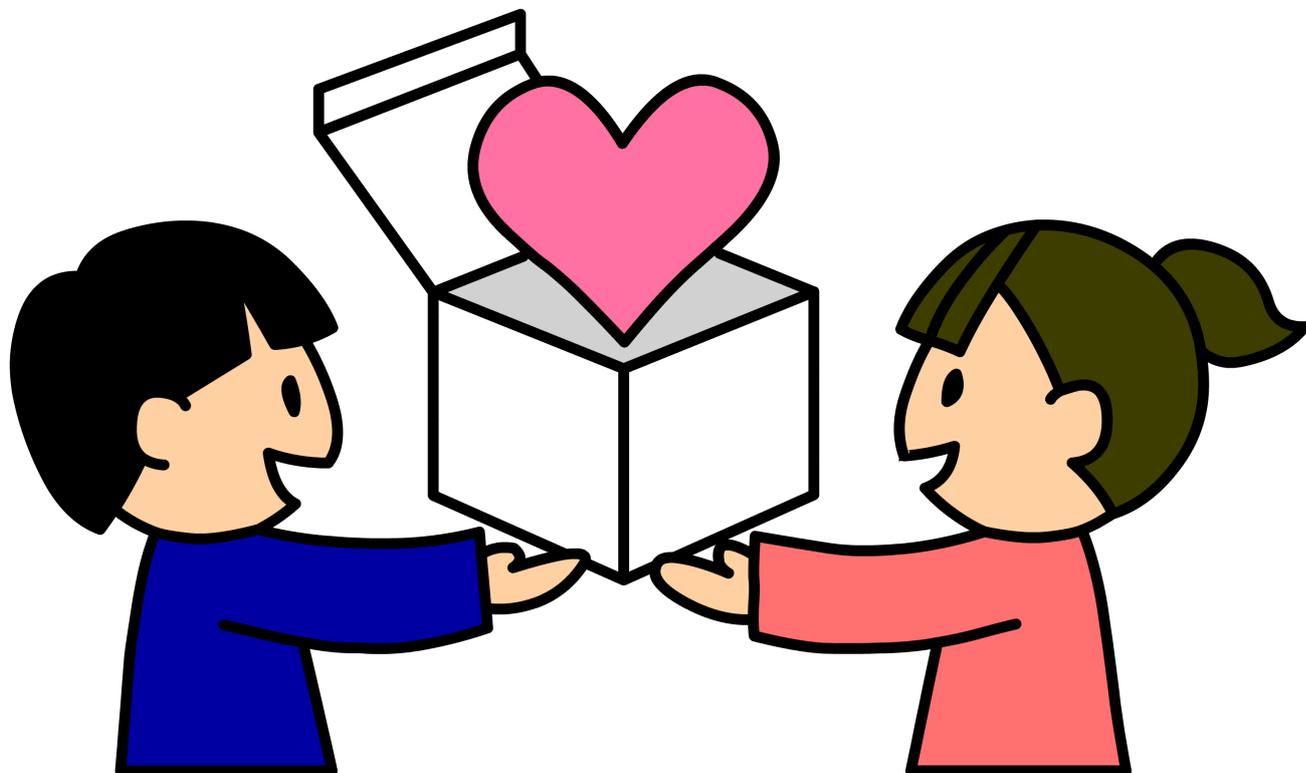


信州特別支援教育カンファレンス

Shinshu Special Support Education Conference

2010



2.13 sat / 14 sun

会場：長野県稲荷山養護学校

2.13 (sat)		2.14 (sun)	
9:00-	受付	8:30-	受付
10:00-11:30	オープニングセッション 「特別支援教育のすすむ道」 矢島 悟 (飯田養護学校)	9:00-11:30	実技講習会 A ① 認知特性の疑似体験② タイムサンプリング法演習 B スイッチで広がる子どもの世界 一子どもの“やりた い” “できる” を実現するスイッチ教材の実際— C SugiuraDenki の教材まつり コミュニケーションエイドとしてのおもちゃ D パソコンによる視覚支援教材
11:30-13:00	昼食	11:30-12:00	クロージングセッション
13:00-15:00	実践報告&セミナー① A 支援スターター&ナビゲーターとしてのアセスメント B AACの考えをもとにしたアプローチ C からだとコミュニケーション D わかる・できる・たのしい教材		
	休憩		
15:30-17:30	実践報告&セミナー② 実践報告&セミナー①の続き		
18:30-∞	懇親会		

主催：信州特別支援教育カンファレンス実行委員会

後援：長野県教育委員会 信濃教育会 信濃毎日新聞社 パシフィックサプライ 長野県教育公務員弘済会

協賛：更埴地区特別支援教育研究会 アクセスインターナショナル

杉浦電機 Droplet Project ぽっしゅん教材 スライド・パブリッシング

1日目 ●実践報告&セミナー● ※各セッション、別会場にて同時進行で行われます。

A 支援スターター&ナビゲーター としてのアセスメント	B AACの考えをもとにした アプローチ	C からだとコミュニケーション	D わかる・できる・たのしい教材
<p>実践報告&セミナー① 13:00-14:00</p> <p>「アセスメント入門 ―アセスメントの基本と活用―」 原伸生 (小諸養)</p> <p>アセスメントの目的は、適切な支援を子どもたちに届けることです。アセスメントをすることで支援をスタートできます。また、子どもたちがうまく支援を受け続けられるように、アセスメントは常に行き先を案内してくれます。アセスメントの方法はフォーマルなものからインフォーマルなものまで様々です。アセスメントの基本と、活用の紹介として特別支援学校や小学校通常学級における実践を紹介します。</p>	<p>実践報告&セミナー① 13:00-17:30</p> <p>「AACの考えをもとにしたアプローチ～AAC基礎講座と最新VOCA体験～」</p> <p>Droplet Project 青木高光 (稲荷山養) 竹内奏子 (諏訪養) 大久保哲綱也 (飯山養)</p> <p>AACって何？ 「できないこと」を「将来のために」に「やらせる」のではなく、 「やりたいこと」を「今ある力」を使って「自分で」できるようにする。 それがAACの基本的な考え方です。 話し言葉はないけれど、周囲の人と楽しくコミュニケーションしたい！ 例えばそんな願いをかなえるためには、どんなツールや方法があるのか、導入方法や使用例を具体的に紹介します。 当日はシンプルなワンボタンのVOCAから、iPhoneを使った最新のVOCAまで、実際に触れて体験していただきます。 一緒に楽しくコミュニケーション環境をデザインしましょう。</p>	<p>実践報告&セミナー① 13:00-15:00</p> <p>「生活に寄りそう身体と心のリハビリテーション」関昌浩 (松本養)</p> <p>言葉のない子の声を聴きたいと願い、身体を通してのコミュニケーションをめざして早10年。子どもたちの身体を通しての「身体が変われば心も変わる」という実践の紹介と簡単にできる秘伝のリラクゼーションのワークショップ。</p> <p>実践報告&セミナー② 15:30-17:30</p> <p>「発達障害のある子どもの運動指導 -ムーブメント教育を通して-」大塚美奈子 (上田養)</p> <p>発達障害のお子さんの中には、運動面で不器用さを抱えている子がいます。生活スキルがなかなか身につかないと悩んでいる保育士さん、先生も多いと思います。まずは楽しみながら身体意識やパランスの発達を促すムーブメントを取り入れてみてはいかがでしょうか？運動スキルの獲得に役立ちます。</p>	<p>実践報告&セミナー① 13:00-15:00</p> <p>「教材100連発!! - 自意識過剰自画自賛自作自演の教材自慢 -」 本田祐介 (伊那養)</p> <p>特別支援学校の醍醐味は、何と言っても教材開発。特別支援学校教員は教材作ってなんぼの世界。一日一善より一日一教材。教材至上主義を貫く「ぼっしゅん」bo-yaが、尖った間よりお届けする自作自演の教材自慢!!</p> <p>実践報告&セミナー② 15:30-16:30</p> <p>「モノから生み出す学びとコミュニケーション -おもちゃ・教具・スイッチ・支援機器-」 杉浦徹 (稲荷山養)</p> <p>障がいのある子ども達の教育にとって教材や支援機器はとても有効なアイテムですが、教室でなかなか活用されていないの実状ではないでしょうか。何気ない文房具、百元ショップのアイテムも、視点を変えれば無敵の支援機器になるかもしれません。支援者に必要な着眼点、アイデアの大切さをみなさんと一緒に考えます。</p> <p>実践報告&セミナー② 16:30-17:30</p> <p>「コミュニケーションを生み出す教材 -自閉症から重度重複障がいまで-」 矢島悟 (飯田養)</p> <p>教材は、子どもたちと私たちをつなぐ架け橋です。教材一つで、子どもたちのコミュニケーションが生まれます。スケジュールボード、カード、VOCA、遊具、スイッチ etc...自閉症から重度重複障がいの子まで、どんなコミュニケーションが実際に生まれてきたのか、一緒に見てみましょう。</p>
<p>実践報告&セミナー① 14:00-15:00</p> <p>「子どものサインや苦戦、どうとらえたらいいの? -通常学級担任にできるアセスメント-」 小倉玲子 (立科小)</p> <p>通常学級の中にも特別な支援が必要な子どもは必ずいます。でも子どもの苦戦をどうとらえたらよいのか、迷うことも多いのではないのでしょうか。発達検査や知能検査を受けられれば、苦戦の元をより正確に知ることができますが、通常学級では、そこまではなかなかつなげられない子どもがたくさんいます。学級の中で簡単にでき、適切な支援につなげられるアセスメントを、事例を通して紹介したいと思います。</p>			
<p>実践報告&セミナー② 15:30-17:30</p> <p>「子どもの「わかった!できた!」を実現する支援とは?」小平幸恵・原伸生 (小諸養)</p> <p>人の手厚さに頼った支援から、子どもが手がかりに気づいて動ける環境づくりにチェンジ。子どもの可能性を引き出す物理的環境を一緒に探ってみませんか。</p>			

2日目 ●実技講習会● ※各セッション、別会場にて同時進行で行われます。なお、セッションによっては定員がある場合があります。

A ①認知特性の疑似体験 ②タイムサンプリング法演習	B スイッチで広がる子どもの世界 -子どもの“やりたい”“できる” を実現するスイッチ教材の実際-	C SugiuraDenkiの教材まつり コミュニケーションエイドとして のおもちゃ	D パソコンを用いた視覚支援教材
<p>原伸生 (小諸養)</p> <p>① 認知は脳内の情報処理プロセスであるため、外からは分かりにくいものです。しかし、認知に関する知識とちょっとした想像力、観察のポイントを知れば、支援を必要とする子どもの認知特性に見当をつけることができます。② 行動観察の方法には様々なものがありますが、そのうち行動を量的に測定する方法として、タイムサンプリング法を紹介します。実際の場面を観察しながら、楽しく観察のポイントや記録方法を学びましょう。</p>	<p>矢島悟 (飯田養)</p> <p>「肢体不自由」は、「したい」の不自由」といわれるほど、やりたいことやできることが制限されてしまいます。でも、スイッチ一つあるだけで、子どもの“やりたい”“できる”を実現することができます。実際にスイッチ教材を作って、どんなことができるのか、一緒に体験していきましょう。</p>	<p>杉浦徹 (稲荷山養)</p> <p>「たのしい授業がしたい」「面白いおもちゃが作りたい」そして何より「楽しく子ども達とかわりたい」そんなみなさんの思いをカタチにします。 創業以来、おもちゃから支援機器まで、モノを通して障がいのある子ども達の学びを考えてきた SugiuraDenki の総決算。具体的な活用方法まで一挙大公開。</p>	<p>本田祐介 (伊那養) with Droplet Project</p> <p>視覚支援教材を作るのに必須な Google による画像検索、無料の秀逸シンボルライブラリー「Drops」、Excel を用いたカレンダーや手順表・・・実際にパソコンを使いながら、スケジュール関連の視覚支援教材を作っていただきます。</p>

- ・ 参加費は 1000 円になります。当日受付にてお支払いください。(1日目の参加でも参加費は変わりません)
- ・ 申し込みは、「信州カンファレンス」blog (http://blog.livedoor.jp/shinshu_confe/) のメールフォームにてしていただくか、下記項目を記入の上、FAX にてお願いします (この用紙のまま送ってもらえれば結構です)。
- ・ 懇親会は会場近くの「ホテル杏泉閣」(026-272-1154) で行います。宿泊される方はそちらをお勧めします。(信州カンファに出席する旨を言っていたいただければ、数に限りがありますが、こちらで事前に予約してある部屋を利用できます。)

氏名		所属	
FAX 番号		e-mail	
1日目参加予定 セッション	A・B・C・D・欠	2日目参加予定 セッション	A・B・C・D・欠
1日目昼食 注文の有無	有・無	1日目懇親会 の出欠	出席・欠席

FAX: 026-261-3453 稲荷山養護学校 杉浦 徹 行き